

はじめに

1986年に男女雇用機会均等法が施行されてから四半世紀、1992年に育児休業法が施行されてから20年が過ぎました。ようやく、ここ数年で、出産後も就業を継続する女性の割合が高まっています。しかし、女性管理職の比率は、欧米諸国と比べると著しく低く、部長級の比率は4.9%、課長級の比率は7.9%、係長級の比率は14.4%です（厚生労働省（平成24年）「賃金構造基本統計調査 一役職一」）。また、近年、企業が抱える課題として、男性に比べるとジョブローテーションが少なく、長期間同じ仕事をしていること等によって、モチベーション（仕事に対する意欲）が低くなっている女性が多くなっているという声を聴きます。

本報告書は、こうした状況において、子どもを出産し、子育てしながら働いている女性の昇進意欲・モチベーション（仕事に対する意欲）を高めていくにはどうしていけばいいのかを明らかにするため、要因を詳細に調査した結果をまとめたものです。調査分析は、お茶の水女子大学教授 永瀬伸子氏に依頼して実施しました。

調査概要はすでに7月にプレスリリースし、新聞等でも紹介されました。本報告書の調査概要は、すでにプレスリリースしたものに一部加筆してあります。

本報告書によって、女性の昇進意欲・モチベーションを高めるためには、女性自身の意識改革や仕事に対する取組み姿勢を変えることも重要ですが、学校の教育から、企業の制度、上司、職場の雰囲気、仕事の与え方、そしてさらには、配偶者までもが変わる必要があるということを知っていただければ、幸いです。

本調査においては、子どものいる女性を調査対象としましたが、昇進意欲やモチベーションの問題は、子どものいない女性たちの問題でもあるので、今後もこの課題に取り組んでいく必要があります。

最後に、大変お忙しい中、非常に多くの質問項目があるインターネット調査にご協力いただきました2500名の女性のみなさまに心から御礼を申し上げます。

2013年11月

公益財団法人 21世紀職業財団

会長 岩田 喜美枝

執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	執筆部分
永瀬 伸子	お茶の水女子大学大学院教授、21 世紀職業財団理事	第 1 章、第 2 章 3 第 5 章
横山 真紀	お茶の水女子大学博士前期課程	第 2 章 1・2、 第 3 章、第 7 章
山谷 真名	21 世紀職業財団研究員	第 4 章
知脇 希	帝京平成大学助教	第 6 章